畜　　産

１　酪　農　繁殖・飼養・衛生管理における点検・改善ポイント　No５

（平成２７年８月　乳用牛ベストパフォーマンス実現会議）

経産牛の供用期間を延ばすために（その４）　分娩事故の回避

（１）具体的な対応

ア）BCS により乾乳期までに肥りすぎないことに留意します。この場合、質的・量的にも十分な粗飼料を給与します。

イ）妊娠牛では分娩前に左腰部が凹むような牛は注意します。

ウ）最高泌乳期は、飼料給与の急増。急変を避けて、第一胃の異常を起こさないような飼料馴致が重要です。

エ）出生直後の子牛への初乳給与の徹底、カーフハッチへの清潔で乾いた敷料の利用交換、バケツでの清潔な飲用水の給与、腹を冷やさない管理に努めます。

オ）初乳の給与は出生後 6 時間以内に 2 リットル、遅くとも 12 時間以内に 4 リットルの初乳を給与する、初乳は免疫グロブリンの多い、乳房炎に罹っていない牛のものを用いる。

カ）管理チェックとして哺乳量、糞便、呼吸などによる異常牛の早期発見、適切な処置。

２　肥　育　成績改善の手法　　（俵牛づくりより）

（１）改善メンバーづくり

公式メンバーと日常的な実践メンバーを選定します。必要に応じて外部の人の意見を聞きます。

ア）活動手法：農場の概要、問題点の列挙、問題点の優先づけ、検討する課題の絞り込み、得できるまで解決策を探り議論、実行の役割分担、実施結果の定期的な検討・総括

（２）データ収集

月 1 回の牛房毎の濃厚摂取量の聞き取り調査、導入後半年の体高と体重（巻尺で可）、生後 17 か月齢と 22 か月齢の血液検査

理想的な数値目標（月末調査　例 17 か月齢は 17.9 か月齢）

区　　分	調査生後月齢	体　重	ビタミン A 濃度
和牛　去勢	生後 17 か月齢	５４０ｋｇ	30～60 単位
和牛　牝	生後 17 か月齢	５２０ｋｇ	20～50 単位
交雑　去勢	生後 15 か月齢	５４０ｋｇ	40～70 単位
乳　　雄	生後 12 か月齢	５４０ｋｇ	

それぞれの 17 か月齢の牛の姿、形と体重、ビタミン A 値を確認しながら、中間成績の改善に取り組みます。成績の良い農家の姿、形を目指して改善します。体重が 17 か月齢で 500ｋｇの場合は、17 か月齢であと 15 kg体重を増やすようにします。最初から半年で 30 kg以上も増やすようにはしません。飼料摂取量を 200 日・6.6 か月で 100 kg（1 日 0.5 kg）増やすようにします。

ビタミン A は急激な変更を避けることと、牝は去勢よりも低く 10 単位前後を目標にします。

３　飼料作物　飼料用トウモロコシの適品種の選定について

品種選定のポイント

（１）乳量などの生産性向上を重視する場合は、子実割合が高い品種を選定（TDN 収量-高）
（２）品種には、収穫適期である黄熟期に達するおおよその日数を表す相対熟度（ＲＭ）を考慮し、播種作業や収穫調製作業の効率化のため、播種期や早晩性品種の構成を考えること。
（３）長野県の飼料用トウモロコシ
【奨励品種】○タカネスター：RM113（長野県内育成）○タカネフドウ：RM125（長野県内育成）　○Ｐ１６９０：RM115（ﾊﾟｲｵﾆｱ）○Ｐ２０８８：RM118（ﾊﾟｲｵﾆｱ）
【普及品種】○ＧＸ５００６：RM123（JA 全農）　○３６Ｂ０８：RM106（ﾊﾟｲｵﾆｱ）
○３２Ｆ２７：RM126（ﾊﾟｲｵﾆｱ）　○ＬＧ３４９０：RM102（雪印）
○ＬＧ３５２０：RM110（雪印）

飼料用トウモロコシの合理的施肥法

堆肥の施用：標準的な牛ふん堆肥の１トン当たり肥料分（肥効率を掛けて試算）
窒素：1.0ｋｇ、リン酸６kg、カリ 10ｋｇ。
堆肥の施用量：堆肥の施用限界量は前歴の施用量にもよりますが、10ａ当たり８トンを目安とし､堆肥連用畑ではトウモロコシの生育量等を考慮して減量してください(３～４トン)。
堆肥の施用時期：播種の１ヶ月前までとします。特に未熟堆肥を施用するときは播種直前に施用しないでください。
堆肥施用量に応じた元肥の施用方法
（例）飼料用トウモロコシの必要施肥量：窒素：８～12ｋｇ、リン酸 12～15kg、カリ４～６ｋｇ①窒素の施用：堆肥量 必要窒素量 化学肥料の施用量　２トン以下の場合 10ｋｇ 窒素成分 13%のＢＢ肥料で 70ｋｇ　３トンの場合 ８ｋｇ 窒素成分 13%のＢＢ肥料で 50ｋｇ　４トンの場合 ６ｋｇ 硫安で 20ｋｇ　**５トン以上の場合 ５ｋｇ 硫安で 15ｋｇ**　※ 堆肥の成分分析及び土壌診断を実施すると正確な必要成分が把握できます。

４　繁殖牛　母牛：日常の管理（肉用繁殖牛飼養管理の手引き）

健康状態の観察

毎日の牛の観察は、１年１産の達成や病気の早期発見において、最も重要な仕事です。主な観察のポイントは下表のとおりで、特に早朝や飼料給与時に行うことが重要です。

項 目	*（主 な 原 因）*
（１）食欲はあるか	*（病気になったり、発情時や分娩に近い時に食欲は低下する）*
（２）反すうをしているか	*（食滞や鼓脹症でガスがたまった場合に反すうをしなくなる）*
（３）鼻鏡が乾いていないか	*（熱がある場合に鼻鏡が乾く）*
（４）呼吸は荒くないか	*（肺炎や鼓脹症などの場合は呼吸が速く荒くなる）*
（５）腹が膨れていないか	*（鼓脹症で第１胃にガスがたまった場合、腹がふくれ、呼吸も浅くなる）*
（６）糞や尿の状態はどうか	*（下痢や胃腸炎などの時は糞が泥状か水様で悪臭があり、固くてコロコロている場合は便秘である。また、尿が赤くなるのは血球や血色素が混じっている場合である）*
（７）ヨダレを出していないか	*（イモ類などの飼料が食道につかえた場合には口から多量のよだれを出し呼吸も浅くなる）*
（８）せきや鼻汁は出ていないか	*（鼻炎や気管支炎が疑われる）*